



第2回 学校運営協議会 8月11日(火) 午前9時~11時 場所 相良中学校会議室

- 内容 ①学校評価について
②学校を知ろう 「校内研修について」「特別支援教育」について
③コロナ対応について ※校内消毒
④懇談

〈出席者〉学校運営協議会委員(校長、CSディレクターを含む)、教頭
説明担当職員、教育委員会(主席指導主事・教育コーディネーター)



学校を知る

今回の学校運営協議会の根底には「学校を知る」というキーワードが流れていました。それは協議会のもち方として非常に大切なことであると同時に、

理にかなった手順です。

先進校の事例を見ても、学校にとって必要なことはどんなことで、何を地域に求めているのかを知ることから、その学校独自の学校運営協議会のあり方を探るように見つけていくという手法がとられています。一見まわりくどいように思えるかもしれませんが、やりたいことが初めから決まっています、実施ありきでスタートした活動よりも、「何が必要か」「何が求められているのか」を熟議し、それを形にしていくというプロセスを経て生み出された活動の方が持続可能なものになるのは間違いないと思います。



視点と感覚

「学校評価」「校内研修」「特別支援教育」「コロナ対応」について教員からの説明によって「学校を知って」いただいた後、委員の皆様にはそれぞれについて自由に発言していただきました。いつものことながら、その視点の豊かさや感覚の深さは圧巻でした。

私たち教員はいつも子ども達や学校のために考え、議論して一つの道筋を見出していくという営みを続けています。もちろん学校運営協議会の委員の皆様も同じように、子ども達や学校のために考えています。でもその視点は教員のそれとは少し違います。どちらがいいというわけではなく、「視点が違う」ということに心地よさを感じるのです。

「with コロナっていうけど、それはコロナの対応のためにいろんなことをあきらめたり、制限したりするイメージしかないよ。With コロナじゃなくて beyond コロナって気持ちを持たなきゃいけないと思うよ。」「学校評価をざっと見せていただきましたが、キーワードは時間でしょ。先生たちの評価結果を見ても、働く人の環境がしっかりできていないように思います。何とかしていきたいですね。」「学校評価を見る中では、家庭の中でコミュニケーションがしっかりとれているか少し心配ですね。子どもを信じて、子どもから何でも聞く。そんなことができればもう少し違った展開が生まれるかもしれませんね。」「学校評価のこのたくさんの項目を見た時、私が保護者なら大まかに満足というところに丸をつけてしまうように思います。ならば概ね満足のところに平均があればそれで良いという見方で良いのではないのでしょうか。1%単位で評価したり分析したりすることは時間の無駄になってしまうかもしれませんよ。」

教員にはなかなかもてないこんな感覚にふれることが学校運営協議会の魅力です。

できることは何か

今野会長は、協議会の中で「何かできることをさがしていきましょう」と繰り返し意見を述べていました。中学校のコミュニティ・スクールはその活動を生み出すのがとても難しいのは事実です。しかし相良中学校のように「学校を知る」ことをベースに「できることをさがそう」という気持ちをもって考えることで、学校にも地域にも見事にフィットする何か生まれてくるように思います。急がず、慌てず、できそうな何かをさがすという意識をいつも中心において熟議を重ねる相良中のスタイルを続けていくことこそが理想なのだと思います。

職業体験がなくなった2年生を社会とつなぐために、学校運営協議会のメンバーの皆さんに面接練習に協力をさせていただく予定があることを聞きました。これもまた学校にフィットする活動の一つだと思います。



